

事業群評価調書(平成29年度実施)

基本戦略名	8 元気で豊かな農林水産業を育てる	事業群主管所属	農林部農産園芸課
施策名	(3) 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化	課(室)長名	渋谷 隆秀
事業群名	品目別戦略の再構築(花き)	事業群関係課(室)	

1.計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文) 米や果樹、施設・露地野菜、畜産物、木材などの品目毎に、品質向上や多収化、新技術・新品種導入、規模拡大や増頭などの生産性向上対策による定時・定量・定質の出荷体制を確保していく取組をはじめ、ブランド化やコスト縮減対策などしっかり稼ぐための対策を推進します。						(取組項目))花き産出額100億円に向けた生産・流通・販売対策 農業者の経営規模の拡大、次世代を担う若手農業者の育成、単価・単収の増加及び新産地の育成、花きの輸出など新たな販路の拡大、新たな需要の創出や花育活動の強化による花きの消費拡大、花き関係組織の活動強化
指 標		最終目標 (H32)	基準値 (H25)	実績 (H27)	達成率	(進捗状況の分析) H27の花き産地計画の販売額は37.3億円で、H26の37.8億円と比較すると99%とほぼ前年並みとなっている。近年、全国的な生産の減少などの影響で単価は比較的安定しており、経営規模の拡大に向けた動きが活発になっている。 本県の主要品目であるきくの販売額は、19.9億円で前年の20.0億円と比較して横ばいとなっている。近年、多発していた病害の発生も少なくなり、単価も安定している。また、規模拡大が進んでいるため、今後の販売額増加が期待される。 カーネーションの販売額は、6.6億円で前年の7.2億円から減少している。近年、カーネーションからラナンキュラスやガーベラなどへの転換が増えつつあり、出荷量は減少傾向にあるが、国内産の生産が減少しているため、単価は比較的安定している。一部に規模拡大に向けた動きがあり、今後、支援を行っていく。
事業群	産地計画策定産地の販売額	1,093億円	965億円	1,014億円	—	
関連指標 その他						

2.28年度取組実績(H29新規・補正は参考記載)

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要 事業対象		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					28年度事業の成果等	中核事業
			H28実績	一般財源	人件費(参考)			指標	主な目標	H28目標	H28実績	達成率		
			H29計画	一般財源	人件費(参考)					H29目標	—	—		
取組項目	活力ある「ながさきの花」100億達成プラン推進事業費	H28-32	5,200	5,200	4,825	花き生産者、長崎県花き振興協議会など	活力ある「ながさきの花」100億達成プランに基づき本県花き生産振興に向けた更なる規模拡大、生産性・品質の向上、生産コストの縮減、担い手の確保、消費拡大や新たな需要の創出、及び輸出の拡大等に向けた以下の施策に取り組んだ。 ・花き輸出拡大支援研修会の開催 ・花き法人志向農家育成研修会の開催 ・技術検討会の開催 ・全国カーネーション長崎大会の開催	活動指標	研修会・検討会の開催(回)	4	4	100%	施設面積1haを有する花き農業者は、1名減となったが、補助事業活用により、29戸の生産者が約4haの規模拡大を行った。 また、全国的に花き生産が減少する中、本県のH27産出額は84億円と4年連続増加し、10年前と比較して全国1位の産出額の伸び率となっている。	○
	農産園芸課		4,015	4,015	5,651				施設面積が1ha以上を有する花き農業者(戸)	17	16	94%		
										20	—	—		
	未来を創る園芸産地支援事業費	H28-32	154,983	154,983	16,084	産地計画を策定した産地の構成員	園芸産地の5年後の目標を定めた「産地計画」の策定及び計画実現に向けた活動の支援を図るため、推進会議の開催、産地の構造改革を推進するための講座や研修会の実施、産地の課題解決のためのアドバイザー派遣、定時・定量・定質出荷の実現やコスト縮減を図るための施設・機械等の整備を支援した。	活動指標	事業推進会議の開催数(回)	2	2	100%	平成28年度までに236産地の産地計画書が策定され、うち花きは、32産地が計画を策定した。 3事業主体、10戸、2.4haに対して、自動カーテンや循環扇などの導入支援を行い、省力化、低コスト化が図られた。 また、産地の課題解決を図るため、アドバイザーの派遣を行い、花きの環境制御技術等の習得を支援した。(1講座、受講者46名) (参考)H27実績:905億円	○
	農産園芸課		129,893	129,893	16,148				園芸作物産出額(億円)	851	算定中	—		
										858	—	—		

取組項目	産地総合整備対策事業費	H18-	1,348,258	29,427	16,084	5戸以上(知事特認3戸以上)でなる農業法人等又は「産地パワーアップ計画」に基づいた意欲のある農業者等	園芸産地の競争力強化に向けた生産体制の整備を図るため、集出荷貯蔵施設、低コスト耐候性ハウス等の共同利用施設の導入に取り組んだ。	活動指標	実施地区数(整備事業)(地区)	4	22	550%	平成28年度は、低コスト耐候性ハウス等の導入推進を図り、花きでは、1法人及び3戸の生産者が計60aの低コスト耐候性ハウスを導入した。また、冷蔵庫や全自動選花機等の機器も導入するなど競争力強化に向けた生産体制の整備を図った。 (参考)H27実績:905億円
										4	—	—	
	農産園芸課		663,750	0	16,148			成果指標	園芸作物産出額(億円)	851	算定中	—	
										858	—	—	
	新技術導入実証普及事業費	H27-29	3,969	3,969	10,646	普及指導員農業者	国の試験研究機関と連携し、先駆的な革新技術および活用の推進に向けた取組を行った。また、具体的には県内では導入事例が少ない新技術を現地で実証し、成果を現地に普及させるとともに、新たな基準技術の策定に向け、現地で実証を行った技術を分析・評価した。	活動指標	現地実証圃の設置(圃)	6	11	183%	基準技術の実証として「ながさきオリジナルキンギョソウ」「カーネーションの新品種候補系統の実証」に試験研究、振興局、生産者等が連携し取り組んだ。 農大が開発した八重咲キンギョソウは、全国的にも珍しく、多くは不明であったが冷房育苗での増殖が可能であることがわかった。また、カーネーションは、花色が珍しいニッチ系統について選抜した。
										6	—	—	
	農産園芸課		3,784	3,784	10,658			成果指標	現地実証による技術確立(件)	0	0	—	
										4	—	—	
	農業改良普及活動費	H26-29	2,267	1,486	26,615	普及指導員農業者	各振興局の普及指導員及び農業者に対する指導・支援を行うとともに、高度・先端的な技術によって現地重要課題を解決するため、技術適応の現地実証・調査を行い、普及活動の高度化を図った。	活動指標	現地実証圃の設置(圃)	6	5	83%	関係機関と連携し、現地実証試験等を行い、課題解決を行った。 ラナンキュラスについては、タバコ共乾施設を使用した球根乾燥が可能であることがわかった。他、成果については、取りまとめて冊子を作成し関係機関に配布した。
										6	—	—	
	農産園芸課		2,270	1,489	26,644			成果指標	地域課題の解決数(課題)	6	5	83%	
										5	—	—	
	ながさきオリジナル新品種開発推進事業費	H27-29	6,946	6,946	2,016	農業者	「いちご」「かんきつ類」「花き」のブランド力を強化するため、オリジナル品種の開発を進めるとともに、枝変りの探索、有望品種の現地適応試験、健病種苗の供給を行い、産地への普及に取り組んだ。	活動指標	交配品種の収集数(品種)	5	7	140%	小ギク「SRC1」輪ギク「白涼」や既に現地で普及しており、H28選抜したラナンキュラス3系統についてはオリジナル品種とし、各産地で栽培開始しており、引き続き優良系統を選抜している。 ハイドランジアについては八重手まり咲き系統が開花し選抜中、ラベンダーについては輸出が開始されているため、商品性が高くリー出荷が可能となる2系統を選抜中である。
										5	—	—	
	農産園芸課		4,953	4,953	2,019			成果指標	交配により作出する個体数(個体)	500	1,900	380%	
										500	—	—	

3.実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

）花き産出額100億円に向けた生産、流通、販売対策

・輸入花きの増加、消費の低迷などで、全国の花き生産が低迷する中、低コスト耐候性ハウスの導入や低コスト・省力機器（ヒートポンプ、灌水同時施肥など）の導入による経営規模やオリジナル品種の育成・普及（カーネーション、ラベンダーなど）について、生産者、関係機関で構成する長崎県花き振興協議会とともに取り組んだ結果、平成27年の花き産出額は、84億円と4年連続で増加し、10年前と比較して日本一の伸び率を示している。

・反面、重要病害や連作障害の発生による生産の不安定化、販売価格の低迷や生産経費の高止まりなどの問題や定時、定量、定質に対応した生産やコスト縮減、法人化など経営管理、雇用の確保、販路の拡大などの課題があり、研修会などを通じて課題解決に取り組んでいる。

・品目別で見ると、きくについては、規模拡大、コスト縮減、省力化に取り組んだ結果、H27の産出額は37億円で、全国5位となっているが、規模拡大に伴う雇用不足や農地の確保などが問題となっており、関係機関と連携しながら、課題解決を進めていく。

・カーネーションについては、ここ数年、輸入カーネーションの増加による単価低迷やカーネーションから草花類（ガーベラ、ラナンキュラス）への転換も進むなど規模拡大の動きはなかったが、国産カーネーションの生産減少に伴う単価の安定などにより、後継者を中心に経営規模の拡大に対する動きがあり、平成28年度2戸で規模拡大がなされた。平成29年度についても、補助事業の活用による経営規模の拡大が計画されており、引き続き支援していく。

・新たな取り組みとして、平成28年度に生花に特殊な保存液と着色料を吸わせ加工した商品（ブリザードフラワー）の生産に向けた研修会を開催した。平成29年度は、国庫補助事業を活用し、本格的に実証試験に取り組むこととなった。

・平成28年に新たな花き振興計画を策定し、花き法人経営志向農家（施設面積1ha以上）の育成を図ってきた結果、きく、草花などにおいて規模拡大の機運が高まり、新たに4ha以上の施設が増加した。

・しかしながら、活力ある「ながさきの花」100億達成プラン推進事業費の成果指標である「施設面積が1ha以上を有する花き農業者」については、1戸の農家が経営不振のため花以外の品目へ転換し、その他の農家についても、目標の規模に達しなかったため、目標達成ができなかった。

・オリジナル新品種開発推進事業の花きについては、各品目でオリジナル品種を開発し県内農家で栽培、日本国内での長崎県の花き産地ブランド力の向上と安定生産に寄与している。平成28年に制定された活力ある「ながさきの花100億」達成プランにて、輸出額の向上が目標になっており、輸出花きの特徴あるオリジナル品種が必須であることから、今後は「輸出に対応した ながさきオリジナル品種」に主軸を置いた開発、さ

・農業改良普及活動費は花きについては展示圃を設置し成果も出た。しかし、本事業は全体事業で達成率83％は、野菜であるアスパラガスの展示圃実施が遅れたためである。五島市での展示圃で栽培の都合上

4. 29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目	活力ある「ながさきの花」100億達成プラン推進事業費	県内での販売促進においては、「国産花きイノベーション推進事業」(国庫事業)を活用し、県費の削減を図った。		花き振興の中核事業として、本年度から花き法人志向農家の育成、花きの輸出拡大の実現に向けた取り組みを開始しており、平成29年度は、法人志向農家育成、輸出拡大支援等の研修会を開催する。 花きの生産拡大を図るためには、平成30年度は、連作障害回避技術の確立や花き産地のPRや生産者と実需者の情報交換の場を設けるなどの販売促進事業の拡充をはかる。	拡充
	未来を創る園芸産地支援事業費	—	—	園芸振興の中核事業として、平成28年度から産地計画及び品目別戦略の実現に向けた取り組みを開始している。平成29年度は、花き産地に対して、定時・定量・定質出荷対策として、炭酸ガス発生装置導入に向け計画協議中。 平成30年度は、産地計画の平成32年度目標達成に向けた支援を引き続き行っていく必要がある。	現状維持
	産地総合整備対策事業費	—	—	平成29年度は、強い農業づくり交付金事業や産地パワーアップ事業を活用し、花きの低コスト耐候性ハウス導入について現在、計画協議中。 平成30年度も花き施設面積拡大に向け、低コスト耐候性ハウスの導入を推進していく。すでに平成30年度の要望もあがっているため、継続して事業を実施する。	現状維持
	新技術導入実証普及事業費	—		ここ数年、全国的に問題になっている「きく白さび病」、「トルコギキョウ斑点病」が本県でも発生し、収量、品質が著しく低下するなど大きな問題になっているため、防除技術の確立が急務となっている。 そのため、「きく白さび病」においては、温湯消毒とUVBを加えた防除技術の確立、「トルコギキョウ斑点病」においては、環境制御技術と薬剤散布を組み合わせた防除技術の確立を図る。	改善
	農業改良普及活動費	—	—	農業革新支援専門員が、各振興局の普及指導員に専門技術及び活動方法についての指導や研修を実施するとともに、高度・先端的な技術の現地実証試験を行う。平成29年度は、「ラナンキュラスの定植前球根処理技術の確立」に取り組んでいる。 次期高度技術について現地実証する必要があるため、平成30年度においても、継続して事業を実施する。	現状維持
	ながさきオリジナル新品種開発推進事業費	—		オリジナル性の高い品種は輸出に適する 경우가多く、現に本事業で開発したラベンダーは現在香港への輸出調査中である。今後長崎県産花きの輸出拡大を推進するために、ラナンキュラス等「輸出に対応した花き品種の開発」を行う必要がある。 一方、カーネーション「だいすき」「あこがれ」の枝代わり系統・選抜、ラベンダーの優良系統選抜の課題については、一定の成果が得られたため終了する。	拡充